

### 3. 自然景観

#### 3-1 自然景観概要

岐阜市の自然景観は、周辺を取り巻く山地の森林が作り出す景観、市街地を貫流する長良川が形成する自然空間が作り出す景観ならびに市街地の中心部にそびえ立つ金華山が作り出す景観によって代表される。

特に、長良川と金華山が作り出す自然景観は、名古屋圏という大都市圏の人口 40 万人規模の都市としては、特異的な自然景観の豊かさを作り出している。

また、平地独特の遠景が確保されており、遠く伊吹山や御嶽などの山岳景観も、その景観要素として確保されていることも特筆される。

#### 3-2 自然景観の特徴

##### 3-2-1 多様な景観要素の存在

###### a. 森林景観（写真-1、写真-2、写真-3、写真-4、写真-5、写真-6）

金華山に代表される自然度の高い照葉樹林型自然林や二次林、北部のアカマツコナラなど薪炭利用に由来する二次林、放置の結果近年増加している竹林、スギ・ヒノキによって構成される人工林など多彩な森林景観が広がっている。

###### b. 耕作地景観（写真-7、写真-8）

畑地、水田、果樹園などの耕作地は、人の営みが生み出した景観ではあるが、植物を中心とした景観要素で構成されており、自然系要素の影響を強く受けている空間と捉え、自然景観に加えることとした。こうした耕作地景観が、北部の山間や南部に広がっている。

###### c. 河川景観（写真-9、写真-10、写真-11、写真-12）

長良川、伊自良川が市内中心部を貫流し、河畔林や草地による景観を形成している。

###### d. 遠景の山地（写真-13、写真-14）

遠景として、西に伊吹山、北東に御嶽を遠望することができ、多様な自然景観の一特徴となっている。



写真-1 森林景観：照葉樹林型自然林  
撮影：佐藤克則



写真-2 森林景観：照葉樹林型二次林  
撮影：佐藤克則

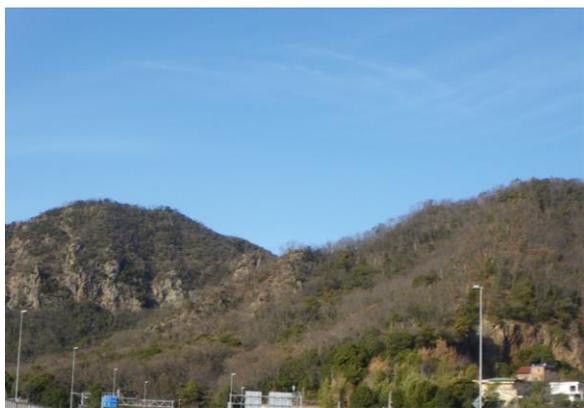


写真-3 森林景観：アカマツ-コナラ林型二次林  
撮影：伊藤栄一



写真-4 森林景観：アカマツ-コナラ林型二次林  
撮影：佐藤克則



写真-5 森林景観：人工林  
撮影：伊藤栄一



写真-6 森林景観：竹林  
撮影：近藤慎一



写真-7 耕作地景観：水田  
撮影：佐藤克則



写真-8 耕作地景観：果樹園  
撮影：伊藤栄一



写真-9 河川景観：長良川河畔林・二次林型  
撮影：伊藤栄一



写真-10 河川景観：長良川河畔・竹型  
撮影：伊藤栄一



写真-11 河川景観：伊自良川・草地  
撮影：伊藤栄一



写真-12 河川景観：長良川・草地  
撮影：佐藤克則



写真-13 遠景の山地：伊吹山  
撮影：伊藤栄一



写真-14 遠景の山地：御嶽  
撮影：伊藤栄一

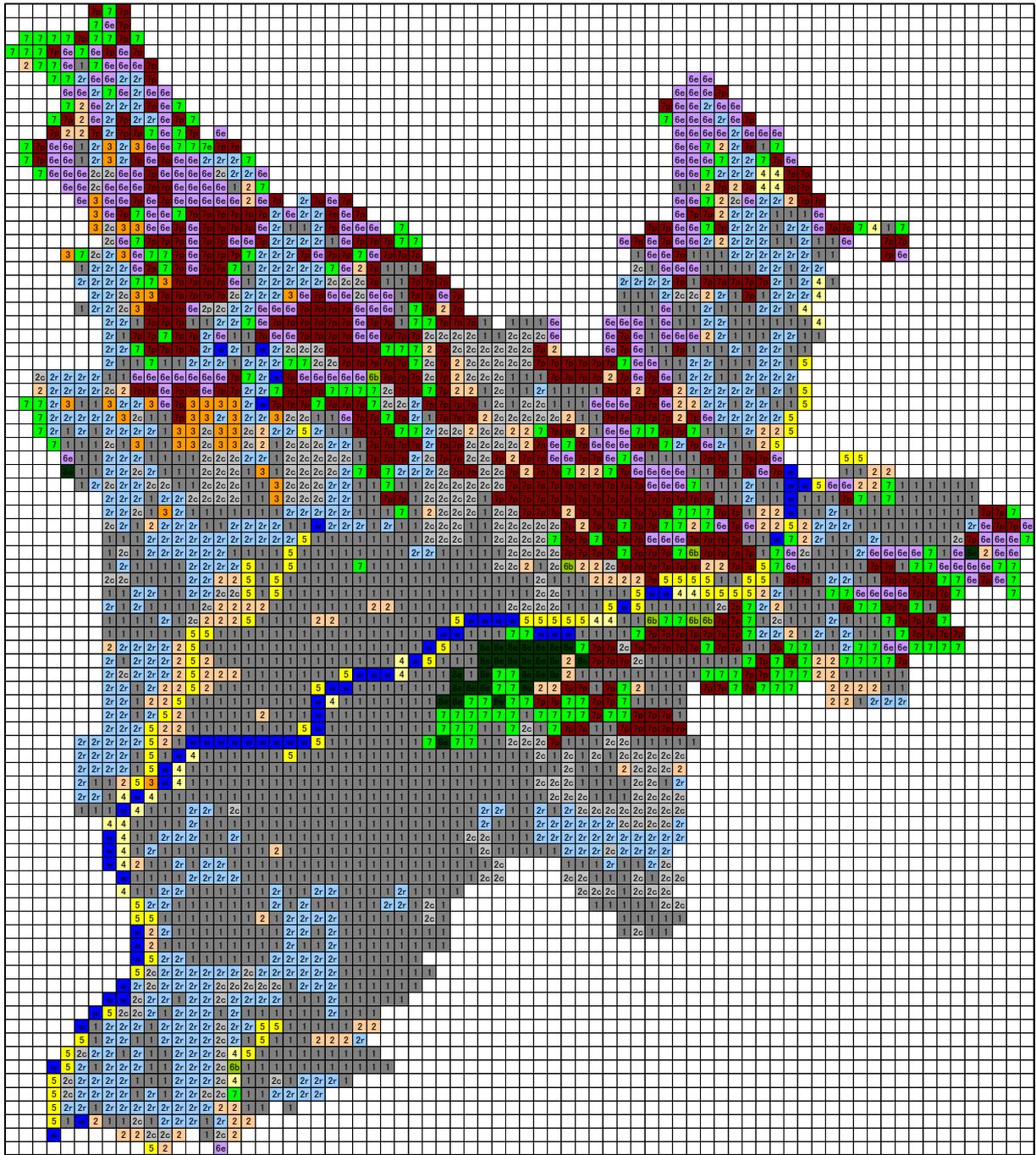
### 3-2-2 各要素の混在

市内の景観要素を、植生図を元に表 3-1 のとおり自然景観要素区分表に整理した。さらに、岐阜市域を 250m×250m のメッシュに区画し、それぞれのメッシュ内の植生などの状況を植生図によって確認しながら、そのメッシュを代表する自然景観要素を表 3-1 により当てはめ、図 3-1 に分布状況を示した。

各景観要素を「自然度」の視点で分類し、その分布状況を捉えてみると、おおまかには、北から南に向かい自然度が低くなる傾向にあるが、各自然景観要素の広がりの中に、宅地、工業用地などが入り込み、種々の景観要素が混在している。

表 3-1 自然景観要素区分表

	自然景観要素
10	高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生の内、単層の植物社会を形成するもの
9	エゾマツ・トドマツ群集、ブナ群集等、自然植生の内、多層の植物社会を形成するもの
8	ブナ・ミズナラ再生林等、代償植生であっても、特に自然植生に近い地区
8e	シイ・カシ萌芽林等、代償植生であっても、特に自然植生に近い地区
7	クリーミズナラ群落、クヌギ・コナラ群落等、一般には二次林と呼ばれる代償植生地区
7p	一般には二次林と呼ばれる代償植生地区の内、上層をアカマツが占めるもの
6	落葉針葉樹の植林地
6e	常緑針葉樹、常緑広葉樹等の植林地
6b	竹林
5	ササ群落、ススキ群落等背丈の高い草原
4	シバ群落等背丈の低い草原
3	果樹園、桑園、茶畑、苗圃等の樹園地
2	畑地等
2r	水田
2c	緑の多い住宅地
1	市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区
w	水面



【凡例】

- |   |   |
|---|---|
| <span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #004d00; border: 1px solid black;"></span> : シイカシ萌芽林等、代償植生であっても、特に自然植生に近い地区        | <span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #ffcc00; border: 1px solid black;"></span> : 果樹園、桑園、茶畑、苗圃等の樹園地       |
| <span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #90ee90; border: 1px solid black;"></span> : クリミズナラ群落、クスギコナラ群落等、一般には二次林と呼ばれる代償植生地区 | <span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #ffcc00; border: 1px solid black;"></span> : 畑地等                     |
| <span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #800000; border: 1px solid black;"></span> : 一般には二次林と呼ばれる代償植生地区のうち、上層をアカマツが占めるもの   | <span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #add8e6; border: 1px solid black;"></span> : 水田                      |
| <span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #800080; border: 1px solid black;"></span> : 常緑針葉樹、常緑広葉樹等の植林地                      | <span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #d3d3d3; border: 1px solid black;"></span> : 緑の多い住宅地                 |
| <span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #90ee90; border: 1px solid black;"></span> : 竹林                                    | <span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #808080; border: 1px solid black;"></span> : 市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区 |
| <span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #ffff00; border: 1px solid black;"></span> : ササ群落、ススキ群落等背丈の高い草原                    | <span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #0000ff; border: 1px solid black;"></span> : 水面                      |
| <span style="display: inline-block; width: 15px; height: 10px; background-color: #ffff00; border: 1px solid black;"></span> : シバ群落等背丈の低い草原                          |   |

図 3-1 自然景観要素区分図

### 3-3 特筆すべき自然景観

#### 3-3-1 身近な存在としての自然景観

先に述べたように、岐阜市は、40万人の人口を擁する都市空間に森林や河川系の自然景観要素が入り込んでおり、都市生活の日常の中で自然景観を身近に感じることができる。

このように、身近に感じることができる自然景観も、生活空間と自然景観要素の接合の仕方いくつかのパターンを見ることができる。

本調査では、生活空間と自然景観要素の配置パターンを、次の3類型に区分することとした。

##### a. 都市と自然が接合したパターン (写真-15、写真-16)

森林などの自然と都市空間の間には、本来、農耕とそれに伴う暮らしによって形成される「里地・里山空間」が存在するのが一般的である。岐阜市においては、都市中心に自然系要素が近接しているため、「里地・里山的」自然と都市とのバッファゾーンが欠落しており、都市空間からいきなり自然へと、際だった景観上のエッジが形成されている。

##### b. 伝統的生活空間と自然が接合しているパターン (写真-17、写真-18)

伝統的な里地の住まい方の内、森林などの自然要素の強い空間の前面に、集落などの生活空間が存在し、その前面に耕作地などが広がっているパターンである。

都市空間と自然の接合パターンに比較すると、際だった景観上のエッジではないが、自然景観を集落で区切った形の里地・里山景観が形成されている。

##### c. 生活空間と自然との間に耕作地等が入り込んでいるパターン (写真-19、写真-20)

前者のパターンとは異なり、森林と集落の間に耕作地が広がり、自然景観の変化が緩やかなグラデーションを展開しつつ生活空間へとつながっているパターンである。



写真-15 都市と自然が接合したパターン  
＜山裾に広がる市街地＞  
撮影：佐藤克則



写真-16 都市と自然が接合したパターン  
＜山裾に広がる市街地＞  
(岐阜市航空写真)



写真-17 伝統的生活空間と自然が  
接合しているパターン  
＜山裾に展開する集落＞  
撮影：伊藤栄一



写真-18 伝統的生活空間と自然が  
接合しているパターン  
＜山裾に展開する集落＞  
(岐阜市航空写真)



写真-19 生活空間と自然との間に耕作地等  
が入り込んでいるパターン  
＜山裾に広がる農耕地＞  
撮影：伊藤栄一



写真-20 生活空間と自然との間に耕作地等  
が入り込んでいるパターン  
＜山裾に広がる農耕地＞  
(岐阜市航空写真)

### 3-3-2 自然景観を考える上で考慮すべきこと

岐阜市の自然景観の今後を考えると、以下の点について配慮する必要があると考える。

#### a. 自然景観を維持する仕組みの模索

森林景観をはじめ、河川、耕作地系景観は、人間の営みによって形作られてきたものである。したがって、この形を維持しようとするれば、農耕の維持や伝統的な森林利用手法を継続していく必要がある。しかしながら、こうした維持形態は、時代の変化とともに継続が難しくなっているといえよう。したがって、この社会状況を踏まえ、今後どのような形で、どのような自然景観を維持していくのかを考えていくことが必要といえよう。

#### b. エッジ景観モデルの模索

調査結果の項でも述べたように、自然系空間と都市空間の柔らかな繋ぎとしての里地・里山が欠落している傾向が強い本市においては、自然系空間に抱かれた都市空間のあり方が問われている。残念ながら、自然景観にマッチした都市景観が形成されているとは言い難く、そのための有効な手法も十分に提示されていない。そんな中で、岐阜市が「都市と自然との対峙」ではなく「都市と自然との調和」景観を提示していくためのモデルを模索することが急務と考える。